

山岳クラブ／ゲーテトーク(ドイツ語 こんにちは)

# 月報 やまふみ

No.212 2013年平成25年6月2日発行山踏み

会 長 /MT

事務局長 /TK

ホームページ/<http://guten-nagano.com/>

編 集 / UR KK ST 印 刷 / 中央プリント株式会社



初夏の大倉池(妙高)

## もくじ



山行報告(4/28~5/19) . . . . . 1~8

編集後記 . . . . . 11

### ★ 4月28日(日) 苗場山 スキー (個人山行)

CL ; TS MT TN

行程 8:30 駐車地点 9:00 苗場山登山口 12:30 苗場山(2140m 地点)

13:00 滑降開始(2004m 地点) 15:00 駐車地点

天気 昼まで曇りとガス 14:00 頃~快晴

本来は土曜日と日曜日の2日間かけて、どこか遠征にでも行こうと考えていた。が、土曜日の天気予報が悪いとなり、日曜日だけ苗場山にでかける。日曜日は晴れの予報。私が自宅を出た時も、北アルプスの常念岳がはっきりと見えるほど、素晴らしい天気であった。これなら、日曜日まで待った甲斐があるというもの…。いつも通りに小布施で2名を載せて上越へ。しかし、北へ上がれば上がるほど、空には雲が。雨も降り出してきた。秋山郷に向かう道では、曇、ガスがかかり、視界不良となる。とりあえず現地まで行ったが、やはり状態は変わらない。モチベーションが一気に下



がる。松本は快晴だったのに！天気予報は全国的に晴れるって言っていたのに！仕方なく、30分ほど車の中で待機して様子を見る。ガスが抜ける様子はなく、昼過ぎには晴れるという天気予報の言葉を信じて、出発する。行き止まりの地点から約4km歩いて、苗場山の登山口に行く。シールを貼り登行。先行き止まり地点に既に車が1台駐車していたこともあり、先行パーティがいる。トレースがしっかりとついている。順調に登りだし、徐々に急登となり痩せ尾根になる。痩せ尾根では、雪がついてなく、はずして歩く。痩せ尾根を抜けると今後は広い尾根になるが、地形が複雑である。ガスで視界不良もあり、帰りにこのトレースにたどりつけるかな？なんて会話をしながら、複雑な地形の広尾根を歩いていくと、先行パーティに追いつく。ここから先に行かしてもらおう。ガスもひどく、地形図と磁石で方向を確認する。斜め左方向に登っていくと、左に沢と尾根が見える。沢に下りるポイントを探し、向こうの尾根に到達。ここで勘違いした。私達が目指している尾根は更に左にある尾根であったが、視界不良でまったく見えず、その尾根を登っていく。1800m位から徐々に勾配が急になり私とM井さんは早々にスキーを担ぎ、アイゼンをつける。T井さんは、クローをつけていたので、そのままスキーで登行した。が、クラストの面には効くであろうが、昨日雪が20cm近く降った為、所々で雪が軟らかく効かない。更に斜面は急になり、スキーをつけて登るのは難しいのでは…板をはずしてアイゼンにと助言したら、アイゼンを忘れたとのこと。そりゃもう無理だということになり、斜面の勾配が落ち着いたところで待ってもらおうこととなった。私達はとりあえず登る。2000m越したあたりから更に勾配は急で、もう崖状態。このまま板を担いで登っても、滑るわけでもないということで、2050m付近に板をデポし、とりあえず頂上を目指す。風が益々強い。ガスは時々風に乗って、一瞬消えることもあるが、まあガスの中。ようやく2100mの湿地地帯に到着。風が強くてゴーグルをする。景色は何も見えない。既に12:30。天気予報では昼過ぎには晴れるということなのだから、晴れても良いのに…待っていてもいつ晴れるかわからないし、このまま頂上まで歩いても何も見えない…ということで降りる。板をデポしたところまで降り、そこから滑降。しかし、斜面は急で、横滑りで高度を下げる。そして、待っていたT井さんと合流。もう少し下ったところで、風のない場所を選んで、遅いお昼休憩をする。すると、視界が徐々に開けてくるではないか。お昼を食べ終わる頃には、ほとんど雲とガスはなくなり、周囲の地形が確認できる。そこで登る予定にしていた尾根を確認すると、視界がよければ、当然であるが、詰めて登れるラインがよくわかる。あんな崖を登らずにすんだ。何も見えないというのは恐ろしいもの。下りの滑降時には青空、暑さを感じるほどになった。先ほどの複雑な地形の広尾根を滑り、痩せ尾根に到着。痩せ尾根からは沢に降りて、林道にて終了。

雪質はというと、凍ったバーンに雪がのっている状態で重く、何とも滑りにくい。この時期の雪質ではなかった。帰り道は、踏の臺を採りながら、車へ戻る。松本ではもうない踏の臺をどっさりお土産にして、お風呂へ。お風呂を出る頃には、空には雲一つない快晴となっていた…

T 記

## ★4月29日(月) 火打山～惣兵衛落谷～笹ヶ峰 山スキー(個人山行)

メンバー M(L)、T

行程:6:54 1310m 笹ヶ峰駐車場～7:52 1577m 黒沢橋～8:45 1760m 滝地点～10:03 2063m 富士見平～10:50 2103m 高谷池ヒュッテ～12:18 2344m 火打肩～12:45 肩より滑降開始～12:51 2033m 正面尾根末端～13:02 1892m 惣兵衛落谷へ乗り換え～13:36 1498m サクラ谷出合～14:25 1256m 林道合流～15:15 1310m 笹ヶ峰駐車場着

昨日の苗場山に続き、GW前半の日帰り山スキー第2弾は定番の火打山である。7時前には笹ヶ峰駐車場を出発。天気は上々で雲も風もなし。1時間ほどで黒沢橋に到着した。昨日行った人の情報では黒沢は雪が割れて流れが出ており通行不可とのことだったが、行ってみると昨年より雪量豊富で眺める範囲で行けそうに思えた。先行者もあり予定通り黒沢を詰めることとする。途中、滝部分で1回スキーを外したほかは大丈夫だった。

10:00 富士見平着、シールのまま高谷池ヒュッテに滑り込む。小屋前で小休止の後、火打山を目指す。12:18 火打肩に到着。今回は時間の都合と昨日の疲れで山頂はパス。ここからコンスタントに続く急斜面の正面尾根を滑降して、谷底からは対岸の尾根を滑ってから隣の惣兵衛落谷を目指す。(そのままと行き詰る)

谷は広く開放的。休み休み滑降を続け、やがてサクラ谷と合流して、そちらの方の台地に乗上げる。斜度は落ちてきて漕がなければ進ま

ないほどになってくる。途中の沢で右往左往するものやがて林道に合流し、15:15 笹ヶ峰駐車場へ到着。帰りに妙高の森で汗を流し帰路についた。



谷底から火打山を見上げる。

M記

## ★4月28日(日)～29日(月) 尾瀬スキーツアー(個人山行)

ST、非会員1名

当初計画では、前夜発で27～29日で山の鼻ベースで組んでいたのだが、27日の片品の予報が悪いため、初日の至仏山滑降を取りやめ、とりあえず山の鼻まで行くだけに縮小変更。しかし27日は思いのほか天気が悪く、麓の戸倉は吹雪となり、ノーマルタイヤに履き替えてあったので鳩待峠まで車は登れず。本降りの雪に、この日はバスでの入山も気が萎えて止めた。

麓で車中泊で過ごし、翌朝一番のバスに乗るつもりで戸倉のバス乗り場に行くとすでに長蛇の列。ほとんどは至仏山の日帰りスキーの方々だが、肝心のバスは鳩待峠の除雪が間に合わず、足止めされる羽目に。当分かかるとの案内に、至仏山を諦めて帰るパーティもいる。待たされること2時間、ようやくバスに乗れた。峠は除雪真っ最中で、手前で下車。すれ違いで渋滞していてこれが待たされた理由のようだ。新雪は30cmほど、陽は出てきたけど強風。これで皆さん至仏山に登るのか？こちらは下りるのだから気は楽。スキーをデポして、テント泊荷物を背負って山の鼻へ下る。途中、T塚さんとすれ違う。同じ27日に山の鼻に泊まるとは聞いていたけど、ちゃんと入山していたのね。至仏山登山のつもりだったけど、今日のコンディションで諦め帰るとのこと。

山の鼻でテントを設営。落ち着いたところで行動分の荷物だけでまた鳩待峠へ戻る。これ、かなり面倒だけど、重荷でスキーを滑るのはこちらでは楽しめないもので、こういうことにしたのです。

峠に戻り、スキーを履いて至仏山とは反対の横田代に向かって登る。こちらはツボ足のトレースが少々あるのみ。横田代まで登ってそこから山の鼻に落ちる尾根を滑るつもりでいるけど、実際、尾根があまりに広く濃い樹林でさっぱり方向がわからず果たして行けるのか不安になってくる。新雪で潜るし結構体力が取られて、時間が遅いし、峠に戻った方がいいのでは？と思い始めた頃、スノーモービルがやってくる。なんと環境省の方。牛首から登ってきたとのことで、これを迎れば牛首には下れるとなり、まあ遠回りではあるけど気が楽になる。横田代へは時間切れで諦め、モービルのトレースを行くが、なんだかつまらない。途中、左下方にメッケ田代らしき雪原が見えたので、これなら行けるのではないかと、当初の予定どおりに山の鼻へ直で下りることに。メッケ

田代は無雪期は行けない人知れずの湿原ですかね。湿原好きとしては今回一番の『めつけ』もの。そこからは山の鼻に伸びる尾根を捉えるのが少し迷うが、右の急斜面を意識しながら行くと良いようだ。先ほどまではガスの中だった至仏山も山頂が見え、風も無くなった。私にはちょうど良い斜面のツリーラン。右手には尾瀬ヶ原と燧岳も見えてくる。斜面が終わり湿原に降り立つが、山の鼻に行くには川上川を渡らなければいけず、橋に出ないと。少し上流へ登るとやった～、登山道の橋に出た。GPSがあれば大したことでもないのだけど、まあ、地図と勘を働かせるのも登山の楽しみではないのかな…なんて勘のない人間が言うことではないか。

翌29日、快晴。2泊だったら丸一日かけて猫又川源流の山々をスキーで廻るつもりだったけど、1泊となり今日帰らなければいけないので半日に計画を縮小、とりあえず1番行きたいカッパ山を目指す。二股まではトレース



外田代

はあったが、その先右俣方面トレースなし。結構重い新雪はしんど…。沢を高巻いたついでにそのまま登って外田代へ直に出た。うん、外田代は何度来てもいいな。本当は夏に来たいのだけど。原を横断し、カッパ山に取付く。カッパ山は景鶴山から大白沢山への稜線から派生する尾根の一部のピークでしかないけど、深い樹林に覆われながらも山頂だけポツカリと湿原が存在し、それゆえその名となっているのは間違いないね。あんなに晴れていた空が何故か雲行き怪しくなってきた。これぞカッパ山いや岩塔ヶ原の怪？疲れたし時間も押しているので稜線目指すのは止めて、そのまま岩塔ヶ原に下りることに。し

かしそのコース、樹林が深く、ちっともスキーが楽しめず。登ったコースを滑降した方が良かった。変な尾根に迷いこんで苦労し、やっと岩塔ヶ原へ。そのまま右俣の本流へ滑り、来たときのトレースと合流。その先は滑降とまではいかないが、楽しし時間短縮にはなる。

山の鼻に戻って急いでテント撤収し、峠へ。登山道は新雪のおかげで、ずっとシール歩行で登れた。至仏山には多数のシュプールが描かれているのが見える。さすが人気の山だ。ほとんどの人はワル沢らしく、私たちが予定していたムジナ沢はあまりシュプールはなかったもんね。またの機会に。なんとか最終のバスには間に合った。マイカーだったら時間気にしなくてよかったのに～。

重い新雪のせいでスキーが思ったほど楽しめなかったけど、スキーでなければラッセルもって苦労してただろう。いつも歩きで来ていたので一度スキーで来たかった。どちらが良いかは一長一短。

S 記

## ★5月5日(日) 御嶽山・スキー(個人山行)

L ; T 島、M 井、T 井

晴れ

8:45 ゲレンデトップ～8:55 田の原山荘～11:20 王滝頂上～12:15 剣ヶ峰 12:40～13:00 王滝頂上～14:20 田の原山荘～14:50 駐車場

GW山スキーの第3弾として木曾の御嶽山へ行って来た。今年の連休は天気に恵まれていたが、その中でも一番予報がいい日を選んで5日にした。おんたけ2240スキー場の駐車場は思っていたよりかなり混んでいた。この時期に営業している数少ないスキー場なので他県ナンバーが多かった。ゴンドラ乗り場の横のゲレンデには雪は幅5mくらいしかない。これは下りもゴンドラだと思って往復切符を買ったけど、係りの人によく聞くと自信がある人は滑って降りられるとのこと。片道分の切符を返金してもらいゴンドラに乗り込んだ。ゲレンデトップから樹林帯を少し下った所に田の原山荘がある。そこでシールは貼って登り始める。

はじめはなだらかな雪原歩きで正面にこれから登るコースがよく見える。御嶽山は信仰の山だそうで祠や鳥居がいたる所に点在している。少し進むと樹林帯に入った。連休という事もあって登山者の数もすごい。スキー・ボードの人が多いのかと思ったら歩き(登山)の人の方が多い。樹林帯を抜けて登りが急になって上を見上



げると山頂まで人の列が続いている。ほとんどに人は広い雪面を歩いているけど、右側の尾根筋に夏道が出ていてそこを登る人もいた。夏道沿いには祠がいくつも続いている。八合目あたりからアイゼンをはいて板を背負うことを覚悟していたけど雪がやわらかかったのでクランポンだけで登れた。しかし長野マラソン組はペースが早い。一般市民はとてついでいけません。大雪面を登り切ったところが王滝頂上で、大きくて立派な神社があった。板を外して神社の中を通り抜けると剣ヶ峰が見えた。



残り100mくらいの登りかな。一旦コルに下って見上げると姐さんが何か叫んでいる。よく聞こえないけど見ると岩がかなり出ているので板をデポして来いと言っているのかな？周りの人たちもそうしているのでコルに板を置いて最後は歩いて登った。

そして剣ヶ峰山頂。ここにもかなり立派な祠、というより神社が建っていた。360度の景色も最高！先に着いた二人は昼ご飯を食べていた。姐さんが言うには板をはいて来いと言っていたらしい。岩ゴロゴロの北側はちゃんと滑れそうな斜面になっている。二人は火口の隣のピークまで登ってから滑ることになり、俺は歩きで降りて下の神社で落ち合

うことにした。硫黄のにおいがすると思ったら地獄谷から噴煙が上がっている。王滝の神社で準備をしていたらすぐに二人がやってきた。そして滑降開始。いい感じのザラメで滑りやすい。天気がいいのでルートに迷うこともない。樹林帯を抜けると田の原山荘に到着。ここで板を担いで少し登り返してゲレンデトップに戻ってきた。帰りに寄った魚屋さんの定食もおいしかったです。とても楽しい一日でした。

T井 記

## ★5月10日(金) 黒沢岳 山スキー (個人山行)

メンバー CL K原 H部

7:00 笹ヶ峰駐車場出発 7:50 黒沢出合い着 8:50 十二曲がり上着 9:50 富士見平着  
11:00 高谷池ヒュッテ着 12:00 黒沢岳頂上 12:30 滑降開始 14:30 笹ヶ峰駐車場

GW 後も晴天が続く中、広大な斜面を狙って火打山を目指しました。

笹ヶ峰に行くまでほとんど雪がなく、板を担がなくてはならないか心配しましたが、笹ヶ峰駐車場に着いたら、どうにかシールで歩ける程度には雪があり、シールを着け歩き出しました。雪から飛び出している枝が多く歩きにくかったですが、K原さんはスイスイ歩いて行きます。黒沢の出合いで板を外して橋を渡り、十二曲がりの急坂はクートを着け、急登に喘ぎながら尾根に。尾根には雪が乏しく、所々夏道が出ていたので、一部板を担いで岩を掴んで歩きました。尾根上の樹林帯の中の雪は凍っていて、斜度はきつくないのにシールが効きにくく、再びクート装着。富士見平からの黒沢岳のトラバースはシールを外して滑降モードで行きましたが、カニ歩きで登る所もあってシール歩行の方がもしかして楽だったかな？と思いつつ、ヒョイヒョイ身軽に行くK原さんの後を必死に付いて行きました。歩きにくいトラバースを終え、広々とした谷合いを私は上へ上へと歩いてしまい、北原さんを見失いました。とりあえず目の前に広がる火打山を目指して歩けば間違いないだろうと登っていましたが、途中で眼下に小屋の前のベンチにいるK原さんを見つけ、滑り下りて行くと、K原さんは早速ビールを購入し他の登山者と歓談していました。天気は下り坂の予報なので早く頂上に行きたいな、と私は気持ちが焦りましたが、K原さんはここで止めるとのこと。仕方ないので頂上は諦め、黒沢岳の東

## 『やまふみ』6月号

斜面を滑ることにして、黒沢岳に向かいました。黒沢岳の斜面ではうっすらトラックがありましたが、ほぼ面つる。黒沢池に向かって気持ち良く滑ることができました。黒沢池からはシール歩きで富士見平に戻り、芭蕉谷のこれまたいい斜面を滑って、途中からはトラバース気味に黒沢の橋まで滑り、橋を渡った後は駐車場まで行く手を阻む枝を跳ね除けながら滑りました。枝が多くて快適とは言い難かったです。少し左に行き過ぎて、駐車場間近で雪が無くなり、2、3回小川を徒渉して、駐車場に戻りました。いつもの200円の温泉と途中でおいしいお蕎麦を食べて帰りました。

火打の大斜面は滑られなかったですが、黒沢岳と芭蕉谷の斜面を滑走できて良かったです。次回は、小屋に泊まって思う存分いろいろな斜面を味わいたいと思いました。

H部 記

### キタさんのおまけコーナー

- ①火打は過去に何度となく訪れているが、今回初めての敗退であった。体調万全でなかったにしろ、自分ももう年なのかと少々ショックであった。
- ②笹ヶ峰P付近の樹林下はほぼ雪で覆われていたが、ブッシュや凸凹多く、過去最悪の滑りであった。
- ③黒沢は完全に割れていた。よっぽど多雪の年でない限りGWではトレースに適さない。快適通過は4月中旬頃までだろう。
- ④今回は高温のため、1790m 独標尾根への急斜面(12曲がり)は完全ザラメだった。通常は早朝アイスバーンでありクート必携。
- ⑤黒沢岳東斜面は、無木の標高差200m 出だし斜度35° 強の超快適斜面(パウダー・ザラメ)。お勧めできます。
- ⑥富士見平からの下りのお勧めは、2062m 独標南のカール状崩壊急斜面。状況により西側からの落石、ブロック雪崩・底雪崩が出るが(過去に経験)、雪質安定時ならあつという間に下れる。1600m 辺りからトラバースして黒沢橋に戻る。今回はドンピシャだった。
- ⑦火打山頂からのお勧めは、2000m 沢底までの南東尾根。斜度30° 標高差460m の快適バーン。

K原 記

## ★5月12日(日) 岩講(物見の岩)

9時～ 参加人数:13人

当初は天気が心配されたが、快晴のもと予定通り物見の岩で岩講を行うことができた。捻挫時のテーピング方法・ザック、ザイルでの搬送方法などを駐車場でにぎやかに体験し、午後はツエルトの張り方、ザイルをフィックスした岩登り、懸垂下降と新人の方達にはかなりてんこ盛りの内容だったと思います。事故は無いにこした事はありませんが、いざというときは使えるよう、各自復習をしましょう。

### 内容

- テーピングの仕方(講師:S川さん/K山さん)
- ザイル・ザック・シートによる搬送方法(講師:T屋さん)
- ツエルトの張り方(講師:Kさん)
- フィックスロープを使った岩登り・懸垂下降

by S谷



## ★5月19日（日） 中西山（個人山行）

U木 会員外1名

駐車場 9:10—登山口 9:50-雪で登山道消える位置 10:50-登山口 11:20—駐車場 12:20

山行届を出した時には週刊予報はあまり良くなかったがだんだんよくなり前日は雨が晴れのち曇りなので計画どおり行くことにした。参加予定のY本さんは日曜は天気が悪くて行けないと思い用事をいれて参加できなかった。登山口の水芭蕉公園は50年ぶりに訪れる。入口で400円徴収される。すでにだいぶ観光客がきていた。

駐車場から道路を歩いて40分で水芭蕉公園に着く。とちゅうで近道をいくと卵がありパンフレットからサンショウウオのものらしい。

立派な中西山登山口の標識がある。しばらくいくと所々に雪がある。後ろから声がして「あ！雪がある」夫婦連れしばらくついてきたがそのうちみえずあきらめたようだ。さらに登ると雪が増えてきて登山道は切れ切れになっ



た。前方に夫婦連れがいた。50分くらい登ると二人が座っていた。この二人もあきらめて帰ったようだ。ここから完全に登山道が消えた。しばし探すが赤いテープを遠くにみつけた。ちょうど上から夫婦連れが降りてきて軽アイゼンをつけていた。稜線ちかくまで行ったが雪庇がでて上にでられないようだ。我々はGPSからみてあと夏だと1時間くらいの位置にいる。とりあえずテープをつけながら20分ほど登るが雪が意外とかたくて夏用の靴ではうまくステップがきれない。天気は曇ってきた。今日は暑いので軽装だった。アイゼンは無しで上にでも雪庇あって難しそう。あわせて140歳の老人では無理は禁物とそこで敗退を決めた。

GPSからみて夏なら40分くらいの位置だった。軌跡は途中から地図の登山道とずれているが多分地図のほうがあやしい。下ってくると二人連れの女性に会う。山登りでなく高山植物があるところまでいくつもりだと。「しかしこの雪では雪に埋もれてみえないでしょう。」と言っていました。今日めずらしく8人に会った。さすが日曜日だな。

下山の途中で時間があつたので少しだけ回り道をして水芭蕉を見てきた。観光客がうじゃうじゃいた。帰りに鬼無里の旅の駅でめずらしい山菜キノシタ(モジガサ)を叔母さんがおおまけしてくれて2袋250円で購入した。叔母さんによると今年は山菜の不作でコシアブラはまったく取れないようだ。残念ごく。

教訓 鬼無里の5月の山ではアイゼンは必ず用意すること

U木 記

## \*編集後記\*

最近 8000m14座登頂した竹内洋岳さんがNHK出版新書から「標高8000mを生き抜く 登山の哲学」(740円)を出版されたのでさっそく読んでみた。人一倍強靱なからだであるがなんと生まれたときは余命4ヵ月と言われた赤ん坊だった。今は180センチで体重65キロである。フリークライマーのような体重だが8000mでは体重があると酸素をよけい必要とするので体重は少ないほうがいいらしい。無論かれは無酸素で登るのだからこういう理論が成立するのだろう。自分が想像していたのはフリーに比べてアルパインは体重が多いほうが有利だと思っていたので意外な感じがした。今孫にせがまれてカブトムシ探しをしています。でもどこにいるんだろう。セミしかとったことがないので苦戦中。 /ゾラ

最近職場でこごみやうどなど山菜を頂ける。それも一人の食卓には結構多い量で頂く。山菜大好きです、無料でもらえるのだから大変ありがたい。でも、料理にあまりレパートリーがない、お浸し/胡麻和え/酢味噌和え/きんぴら...、大好きだけどやっぱり同じ味が続くと飽きてきてしまう。なにか変った調理法はないかしら?と調べてみたりするけど冒険の出来ない性格のせい、あまり変わった調理法にチャレンジする事が出来ない。結局いつもの慣れた味になってしまう。おいしく食べられているのだからまあいいか。 /カタカナ

富士山が世界遺産になりそうだという。富士山は確かに日本一高く、日本のシンボルでもある。山で富士山が見えると喜ぶ登山者は多いし、「登山をやっている」と言うと、「富士山は登った?」とまず訊かれる。実は私はまだ登っていない。登山の対象として興味がなかったからだけど、話のタネに一度登っておいてもよかった。アマノジャクだから、これで当分登らないことだろう。元会員で「富士山大好き」で年に10回以上登っていた人がいた。正月に山頂からメールをくれたことがあった。2月の厳冬期も一人で登っていた。彼はどんな思いでこのニュースを聞いたのかな? /とっこ